

島に子どもがいることの重要性 —地域を活性化させる鍵としての離島留学—

柴田 雪乃

近年「アウトドア島旅」という言葉を見かけるようになり、離島への旅が再び注目されている。しかし、離島の過疎・少子高齢化・若者流出の問題は依然として深刻である。小・中学校はある島でも高校がなく、高校進学を機に家族で本土に移り住み、そのまま本土で暮らすことになる家族も多い。離島は観光資源としては魅力的だが、本土と比べると生活基盤が十分に整っているとは言えない。

本論文では、全国的に離島振興策として注目され、都市の子どもが離島で長期の学びと生活体験を行う「離島留学」が、地域活性化にもたらす影響を考察する。研究方法は、関係者へのインタビュー調査、文献・資料およびインターネットを用いた調査による。

その結果、本土から子どもを呼ぶために、市町村から留学生へ対する多額の助成・支援制度の存在、離島の特性を活かした「生きる力」を育てる体験教育やきめ細かな教育プログラムの工夫、高校では卒業後の進路を見据えた教育、地域づくり学習、独自の先駆的な教育に取り組むことで特色を出そうとしていることが明らかになった。また、離島留学による新たな関係の生成や再編成による留学生・保護者・里親・地域住民・学校・島の子どもたちへの大きなプラスの影響が見られた。一方で、希望者が多く受け入れが追いつかない現状や、離島留学募集地域一覧のホームページの見づらさ、留学を希望する子どものニーズと受け入れる島側の期待する児童・生徒像との間にミスマッチがあることも多いなどの課題が浮かび上がった。

島外から子どもを島に呼ぶために、離島留学は必要不可欠な手段である。そのために、留学希望者のマッチングサイトを留学一覧に併設すること、特別支援教育支援員を配置し留学生の多様なニーズに応えることなどの解決策を提案した。過疎自治体の現状を踏まえつつ、留学希望者の期待にも応えられる事業を構築し、島の活性化につながる持続する離島留学になることを期待したい。